

城
崎
百
の
う
た

第二十三回 城崎短歌コンクール
第十九回 城崎俳句コンクール

なかにしけんじ
選者プロフィール 中西健治 先生



1948年、兵庫県生まれ。
元立命館大学文学部教授。平安朝文学専攻。文学博士。「ポトナム」代表。現代歌人協会会員。「橘 諸兄文学賞」選者。「京都短歌」(朝日新聞)選者。著書に『浜松中納言物語の研究』(大学堂書店)、『弄瑛集本文と索引』(和泉書院)、『枕冊子全注釈五』(角川書店)、『平安末期物語放』(勉誠社)、『雅文遠望』(龜鳴屋)、『源氏物語忍草の研究』(和泉書院)、『源氏物語のなごり』(新典社)、『歌集』(茶屋峠)、『ポトナム社』など多数。

選者講評

歌は時代を写す鏡、時代を超えて輝く心の声——今年も城崎温泉観光協会の大きな支援によって百の歌を編むことが出来ました。本当にありがとうございます。一昨年からコロナ禍が蔓延し、世間全体が活気を失っているような風潮があります。そんな中、一時、城崎温泉の湯につかり、街の空気に触れ、腹の底から力強い命のよろこびを歌ってみよう、そんな思いで寄せられた多くの作品に触れることができました。従来は「城崎短歌コンクール」(今年で第二十三回目)、「城崎俳句コンクール」(今年で第十九回目)として多くの方に支持されてきましたが、現今の状況から応募数自体が案じられたことではありません。しかしながら蓋を開けてみると、短歌約二百二十首、俳句約四百三十句が寄せられ、例年と変わらない期待通りの熱気が押し寄せてくるように思われたのです。やはりこれもまた温泉の効用とでもいうべきことでありましょう。例年は短歌、俳句それぞれに百の作品を掲載していましたが、今年も短歌四十首、俳句六十句を選び、それぞれを合わせて「百のうた」としてまとめ、優れた作品を紹介することにしました。どちらも日本の誇るべき短詩型文学です。併せて鑑賞してください。

全世界を覆っている暗雲が消え去った後に、また素晴らしい「命のうた」が詠みあげられることを期待しています。

最優秀賞

城崎で父に告白されたこと九十歳の母の勲章

兵庫県川西市 木内 美由紀

一読、三嘆。そのあとジワーツと微笑みが湧いてくる。家族旅行で城崎に来て身も心も開放的になり、座もくつろいだあたりで、思い思いの雑談の中に九十歳の母の思い出が語られて…それはなんと、はるか昔の思い出話で、しかも若き日にこの城崎で父に告白されたというのだ。「母の勲章」と捉えた娘さんの感覚に拍手。

優秀賞

墓に待つ母に語るむ吾が余生姉妹で城崎樂しかりきと

大阪府羽曳野市 新居とも

小さい時から大切に育ててくれた母は彼岸の国にいる。今、姉妹で城崎に来て、とっても楽しい時を過ごした。その喜びを彼岸に居る母に伝えよう、そしてまた以前と同じように母を囲んで話に花を咲かそう。「お母さん、もう少し待っててね。楽しいお話、いっぱいするからね」と声が聞こえるようだ。

金婚の外湯巡りはぬばたまの夜桜映えるスーパームーン

大阪府大阪市 村橋 照善

周りのものすべてが金婚を祝うかのようだ。温泉街を行き交う人たちのさんざめきも、万朶の夜桜も、そして大空にかかるまん丸の月までも。高まる気持ちを引き連れて、今夜はこの幸せにどっぷりと浸ろうか。結句のカタカナは桜の美を引き出す効果を、表記のうえからも、もたらしている。なんともいい響きだ。

城崎の外湯めぐれば日も暮れて川沿いの灯と君しか見えぬ

東京都板橋区 林田 夢美

ゆっくりと時間をかけて外湯をめぐり、温泉街の気分を満喫した。夕暮れになってポツポツと灯りがともり、心にもポツと炎が灯ったようだ。目に入る街並みの風景はたしかに見えているはずだが、自分の心のスクリーンに映るのは君の優しい笑顔だけだ。これって恋の予感だよな。

ひたすらに規制解除とあの笑顔待ちて夜見る温泉の夢

大阪府大阪市 石田 隆 至

「コロナ禍で自粛」——長い長い自粛生活はもううんざりだ。多くの人が久しく等しく待ち望んだ「規制解除」の号令。そして元の通り、温泉に浸って語り合う満ち足りた時間をもちたいものだ。一刻も早いその日を願わずにはおれない。この冊子を手にかざるときには昔話になっていることを願う。

寝たきりの祖母が夢見た城崎は玄武が守り乙姫が舞う

京都府福知山市 山口 秀 樹

城崎観光でかつて見た玄武洞の姿は、体が不自由になった今もよみがえる光景である。太古の昔に噴火でできた洞窟の前に立ち、見事な柱状節理の威容に打たれた。自然の巧まざる美しさは深い感動と喜びを強く心に刻んだ。そしてなお今にも懐かしく思い出し、語っていると。そこに一つの物語があるようだ。

佳 作

連れだって訪ねし日から五十年日和の山は今も光りぬ

大阪府茨木市 並川 益子

台風ねえ…今夜は今夜の風吹くと温泉街をのんびり歩く

京都府京都市 小坂 純一郎

外国とくくにを巡り務めて退官の祝いに奨める城崎温泉

兵庫県朝来市 谷藤 眞佐恵

洞窟湯朝鳥の声清らかに我が身に届く秋風連れて

兵庫県神戸市 馬場新一

命日にならずに済んだ癌手術^{いのち}生命の巡り城崎七湯

東京都足立区 佐藤春夫

ようやくの宣言解除ゆっくりと足伸ばしつつ浸る寛ぎ

大阪府高槻市 並川靖生

一日中うらにし空に湯の町はかにすき客のマスクの乱舞

兵庫県豊岡市 四角澄朗

にぎやかに母を囲みて一の湯へ喜寿の祝いの始まりはじまり

兵庫県朝来市

高橋久美枝

城崎を優雅に舞へるコウノトリ去年鶴岡を訪ねくれけり

山形県鶴岡市

大沼二三枝

入 選

嫁ぐ娘と思ひ出旅行は城崎へ夫の嬉しげ寂しげな笑み

兵庫県朝来市 竹村雅子

澄みわたる空気で踊る柳の葉今も昔も変わらぬ景色

京都市京都市 別府華

いつぞやの恋を忘れて立ち尽くす橋の袂に思いを馳せて

兵庫県姫路市 中島保

背子蟹を食べてみてよね豪快に丸ごと入れた味噌汁で

兵庫県豊岡市

畑中照久

城の崎の新婚写真はセピア色卒寿の兄は宝と見せぬ

兵庫県加古川市

小谷 さよ子

文学碑立ち並びたる城崎は歴史と文学いで湯の街よ

兵庫県朝来市

谷 綾子

下駄の音に夏も忘れて夢うつつ心温もる城崎の宿

兵庫県神戸市

山口 紗葵

胸一杯柳の風を吸いこめば身体に満ちる眩い光

京都府京都市

菊池華

彼の鳥も彼の文豪も癒やした湯母も癒やせよ城崎の秋

広島県東広島市

宮崎香陽子

湯煙の立つ側溝を踏み行けば過去から響く駒下駄の音

大阪府吹田市

萬木毬乃

静かなる温泉祭の宵闇に愛宕橋にて笛吹く人あり

兵庫県豊岡市

山田まゆみ

山々を越え来てつかる湯の味はまろく清けく水々しきもの

大阪府大和郡山市

水野隆司

鴻見つけ僧開きたる靈泉のまれなる功德未だ尽きせず

大阪府寝屋川市

新城裕太

温泉の湯気に向こうのシルエット声聞きわけて会話が弾む

兵庫県加古川市

橘真希

大雪の警報出るも関せずと孫は喜び雪だるま作り

兵庫県美方郡

國谷由喜子

あなたとの思い出の湯屋めぐってる今宵満月朧に見ゆる

大阪府羽曳野市

赤澤

皆

雲間より鏡の如き月のぞく花満開の城崎の夜

兵庫県西宮市

南

理恵

火照りたる湯浴みのあとの下駄散歩大谿川の吹く風すずし

兵庫県豊岡市

谷口

俊一

淹れたたのコーヒー旨き城崎の時雨の雨も味わいており

山口県周南市

野村

貞江

雪空に立ち昇る湯気ゆらゆらとかの日の母も白く染まりて

兵庫県朝来市

田畑和廣

湯煙の燻り立ちたる古里の駅の足湯の紅きペディキュア

京都府京丹後市

田崎千草

リュックには麦わら細工のキーホルダーつけてルンルン鼻歌ラララ

大阪府大阪市

日野江美

眼前に峨峨と聳ゆる玄武洞地下より野獣の暴れ出るがに

奈良県奈良市

堀ノ内和夫

鱒雲眺め外湯をめぐりつつふと思ひ出す父母との旅行

兵庫県明石市

小田和子

残雪を越え湯に浸かり日常を吐き出すようにふうとひと息

兵庫県明石市

小田龍聖

最優秀賞

湯の町やこうのとり舞う雪浄土

兵庫県豊岡市 湊崎 めぐみ

こうのとりは幸せを運ぶ鳥。湯に浸って病を治したという伝承もある特別天然記念物で、その美しさ、力強さに感銘を受ける人も多い。雪の舞う城崎の空に鶴の姿を見て、清らかな浄土を夢に見、心が洗われる思いがする。舞う雪の様子と鶴の飛翔する姿を描いて、読者は束の間の夢見心地になるはずだ。

優秀賞

木漏れ日や大谿川の花万朶

京都府京都市 柏谷絶学

城崎の街を流れる美しい大谿川。行き交う人々の姿を映し、そぞろ旅情を醸し出す水面に、いまでも盛りをとどめた桜の枝から花吹雪が散り舞っている。「木漏れ日」は嫩葉色に染め上げられ、「万朶」に「花」を重ねて「花万朶」とする繚乱たる花景色。色彩にも優れ、いまでも花のかぐしい香りも届くようだ。

湯上がりの夜風に溶ける夏柳

兵庫県西宮市 松本 有紀子

温泉の効用は湯ばかりではない。湯上りのそぞろ歩きになびきかける柳が付き従う風情も、これまた気も晴れ晴れとするものだ。「夜風に溶ける」というとらえ方がうまい。まさにそのとおり。私の心が夜風と共にうきうきと川端を漂っているのだ。これまた城崎温泉の効用と言うべきだろう。

湯けむりに桜散る風君の花笑み

京都府京都市 広瀬 彩 名

春、友達と湯に入った。季節は春。桜の花びらが舞っている。お互いに胸襟を開いて語り合い、将来を語り合った。その時の友達の笑顔がなんとも素敵で、同じ「笑み」でも「微笑み」ではなく、「花笑み」と言う言葉を選んだセンスに感心し、選んだ。

城崎やしたり揺れゆく雨柳

沖繩県石垣市 高橋 芳 維

雨に柳は付きものであるが、ここは城崎。温泉の街である。「したり」は感動詞で、折りよく雨も降りだした。この光景こそあっぱれ見事！と感嘆の声をあげているようだ。柳はそんなこととお構いなしにゆらゆらと揺れ、雨を受け流している。日ごろの憂さも流れ去るだろう。

地蔵の湯出て君待てば朧月

京都府京都市 三原 寿 典

何ともなまめかしい句である。「君」は妻か恋人か、いずれにしても心ときめかせる人であることには間違いない。人を待つほど素敵なことはない。特に朧月夜との待ち合なんぞは、源氏物語の光源氏と朧月夜との出会いにも通じてなんともなまめかしい…。否、考えすぎか。ほのぼのとする句である。

佳 作

一の湯で蟹とコウノトリが語る錦秋あき

大阪府箕面市 中本 智恵美

願掛けて土器かわらけ投げる紅葉山

大阪府枚方市 高木 美智子

コロナ禍の静けき木屋町花筏はないかだ

兵庫県豊岡市 山田 まゆみ

蟹の宿三階木造軒連ね

福井県坂井市

中村 惠 實

鴻の湯に浸りて空の高さかな

奈良県大和高田市

森 井 正 三

黙食をさせるはコロナか蟹むきか

広島県東広島市

小 池 悠 実

月代^{つきしろ}も雲のマスクで自粛中

大阪府大阪市

川 合 由 朗

大^か谿^わ川^べ縁^りの柳すき間の陽の光

東京都足立区

佐藤春夫

せり声の弾む足元蟹走る

兵庫県豊岡市

森田洋

入 選

陽が暮れて水面に映る街灯り

兵庫県明石市

西 垣 久実代

夜風に流れる白い息と湯気

奈良県生駒市

田 中 慶 史

新涼や湯めぐり浅く下駄の音

大阪府羽曳野市

新 居 と も

雪の夜のホームに島田シルエツト

奈良県奈良市

甲斐田 八重

瑞風の汽笛合図ぞ大柳

兵庫県尼崎市

大沼遊山

柳越し橋川に写し花火かな

大阪府高槻市

大庭 勲

下駄を蹴ることに始まる湯屋めぐり

大阪府羽曳野市

赤澤 皆

時雨虹峽の湯の町跨ぎけり

兵庫県加古川市

高橋宣子

宿下駄で巡る湯巡りマスクして

兵庫県三田市

森直稔

ジオカヌーのらりゆたりと春の海

兵庫県川西市

佐保田全弘

杖ついて雪道そろり御所の湯へ

大阪府大阪市

水杉武子

蟹鍋の雑炊となり夜の怒濤

兵庫県加古川市 小谷 さよ子

松葉蟹値札をにらみ一思案

兵庫県姫路市 中島 保

春宵や大谿川に映る影

大阪府箕面市 中本 常憲

春浅き湯けむり香る露天風呂

兵庫県豊岡市 岡本 重子

出陣にだんじりの足揃いたり

兵庫県豊岡市

湊崎康雄

水狭め中州一面草紅葉

兵庫県豊岡市

川崎悦子

湯めぐりにやなぎゆらめく文学碑

兵庫県神戸市

馬場栄美子

夜風浴び柳に浴衣ゆらゆらと

京都府舞鶴市

岡田彩希

城崎のユキニモマケズ冬椿

兵庫県明石市 伊藤 優介

温かい湯と親の愛につつまれて

京都府京都市 岸 本梨奈

湯殿にて話し込みたる竹の春

京都府京都市 中村 かよ子

湯けむりや桜と柳と志賀直哉

大阪府箕面市 杉田 映理

大谿の川面も赤なり冬夕焼

兵庫県豊岡市

谷口俊一

コロナでも温泉かわらぬ心地よさ

大阪府堺市

藤田満里奈

湯上がりに揺れる柳の涼しさよ

京都府丹波市

赤尾知子

夕焼けの水面にうつる紅葉かな

大阪府羽曳野市

小林孝隆

湯けむりに一夜の思い出揺れる日や

京都府京都市

村中靖章

マスクとりお湯に浸かれる幸せよ

神奈川県茅ヶ崎市

藤倉志賀子

湯ほてりを醒ます窓辺の飛花落花

兵庫県神戸市

鍛治川由衣子

城崎や雪の石橋糸柳

福井県坂井市

中村吉男

夜の静寂^{しじま}破る太鼓の盃蘭盆会

兵庫県豊岡市 田川 愛子

玄武洞コロナ打ち消す壮大さ

大阪府堺市 今西 研太

露天風呂コロナを忘れるボタン雪

大阪府大阪市 日野 江美

湯につかり明日の墓参を忘れけり

大阪府吹田市 市場 さと枝

湯上りの肌より赤き蟹の前

兵庫県明石市

小田 和子

海象せいうちの如く湯に浮き春の月

兵庫県明石市

小田 虎賢

花冷えや我が子抱き入る露天の湯

兵庫県明石市

小田 龍聖

破顔会ううからやからの松葉蟹

京都府京丹後市

中川 加代女

外湯行き挨拶交わす下駄の友

兵庫県尼崎市 荒川としみ

大谿川柳艶やか時雨傘

兵庫県三田市 森道子

紫陽花の浴衣姿に頬染める

千葉県佐倉市 太田早紀

極楽や夜の湯を照らす雪明かり

兵庫県神戸市 辻本裕志

城崎や風に流れる蝉時雨

奈良県生駒市

池 畠 翔 平

太鼓橋色浴衣かすむ新妻の笑み

大阪府茨木市

柴 田 勝 大

第二十三回城崎短歌コンクール
第十九回城崎俳句コンクール

城崎百のうた

二〇二二年三月二十二日発行

編集 中西 健治（元立命館大学文学部教授）
発行 城崎温泉観光協会

〒六六九一六一〇一 兵庫県豊岡市城崎町湯島七八

TEL 〇七九六一三二一三六六三

FAX 〇七九六一三二一三〇〇五

E-mail info@kinosaki-spa.gr.jp

URL <https://www.kinosaki-spa.gr.jp/>

第二十四回

城崎短歌コンクール

第二十回

城崎俳句コンクール作品募集

題材／城崎温泉や但馬地域を詠んだ作品

(例) 城崎・温泉・浴衣・下駄・月・桜・柳・紅葉・雪・酒・蟹・コウノトリ・麦わら細工

選 者／中西健治先生(歌人・元立命館大学文学部教授・文学博士)
募 入／令和五年一月十日(火)必着 短歌(二首まで)、俳句(二句まで)。

表 彰／応募用紙に記入して歌のポストへ投函していただくか、左記応募先へ郵送してください。
入 選 表 彰／短歌・俳句とも最優秀賞・優秀賞・佳作・入選。
表 彰 表／令和五年三月上旬 入賞者には入賞のご連絡の送付をもって発表にかえさせていただきます。
主 表 一 彰 式／令和五年三月下旬 予定 会場／未定

主 表 一 彰 催／城崎温泉観光協会

応募・問い合わせ先／〒六六九・六一〇一 兵庫県豊岡市城崎町湯島三五七の一 城崎文芸館 TEL〇七九六・三三二・二五七五
※都合により変更になる場合がございます。詳細が決まり次第、城崎温泉観光協会ホームページにてお知らせいたします。

城崎温泉観光協会ホームページ <https://www.kinosaki-spa.or.jp/>

題材／城崎温泉や但馬地域を詠んだ作品(短歌俳句各2作まで) ※新旧かなづかいは自由。楷書で漢字にはフリガナをつける。

紙 用 募 応	
短歌俳句 郵便番号／〒 _____ フリガナ 氏名／ _____ 職業または学校名・学年／ _____	短歌俳句 住所／ _____ (年齢) 歳 電話番号／ _____ () () 宿泊旅館名

